

2021年 審査員一覧

審査員(最終審査会)

- 各務 茂夫

国立大学法人東京大学 大学院工学系研究科 教授

産学協創推進本部 副本部長

一橋大学商学部卒、スイス IMEDE(現 IMD)経営学修士(MBA)、米国ケースウェスタンリザーブ大学経営学博士。ボストンコンサルティンググループを経て、コーポレートディレクション(CDI)の設立に創業パートナーとして参画、取締役主幹等を歴任。2002年東京大学大学院薬学系研究科寄付講座教員となり、2004年東京大学産学連携本部(現産学協創推進本部)教授・事業化推進部長に就任。2004年～2013年まで(株)東京大学エッジキャピタル監査役。2013年～20年3月教授・イノベーション推進部長。2020年4月より現職。

一般社団法人日本ベンチャー学会会長。

2005年「東京大学アントレプレナー道場」開講以来、学内に様々な起業家教育プログラムを展開。現在、文部科学省の次世代アントレプレナー育成事業 EDGE-NEXT 東大代表者。今年度、大学発新産業創出プログラム(START)スタートアップ・エコシステム形成支援事業に「Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)」が採択。東大プログラム代表者。



-
- 安部 博文

国立大学法人電気通信大学 企画調査室 客員教授

博士(経済学)。電気通信大学認定ベンチャー企業支援、ベンチャービジネス論を担当。事業計画を拝見する場合、「誰が・誰に・何を・いくらで・いつ・どこで・どのよ

うな方法で提供する話か」、「類似・先行の商品・サービスとの違いと優位性は何か」、「お客様・ユーザにとっての費用対効果は何か」の説明に注意します。これらの項目の説明が出来ているかどうか、をチェックポイントにしています。



- 阿部 浩之

国立研究開発法人国立成育医療研究センター 知財・産学連携室 室長
大手外資系製薬メーカーほか、医薬品業界において、川上（研究開発）から川下（流通・調剤・販売）まで、あらゆる職種に従事。2015年、国立成育医療研究センター 知財・産学連携室長に就任し、小児製剤開発、産学連携、センター内のシーズ発掘およびマッチング企業の探索を推進。2017年、日本医療研究開発機構臨床研究・治験基盤事業部に出向し、橋渡し研究支援拠点や臨床研究中核病院等においてアカデミア等による革新的な基礎研究の成果を一貫して実用化に繋ぐプログラム等を推進。1986年、富山医科薬科大学（現 富山大学）薬学部薬科学科卒、2013年、武蔵野大学大学院薬科学研究科博士後期課程修了（博士（薬科学））、薬剤師、ITストラテジスト（経済産業省認定 情報処理技術者レベル4）。



白木澤 佳子

国立研究開発法人科学技術振興機構 理事

東北大学理学部生物学科卒業後、科学技術振興機構(JST)の前身である日本科学技術情報センター(JICST)に入所。科学技術分野のデータベースの提供や、基礎研究から産学共同研究まで幅広い研究開発へのファンディングプログラムなどを担当。バイオサイエンスデータベースセンター(NBDC)の立ち上げやセンター・オブ・イノベーションプログラム(COI)を部長として推進。2015年10月から現職。現在、シーズ育成から企業化開発、国際共同研究、ムーンショット型研究開発などのファンディングプログラムやSDGsを担当。



• 田村 真理子

一般社団法人日本ベンチャー学会 理事・事務局長

(株)日本経済新聞社、(株)日経 BP 社を経て、2000年より一般社団法人日本ベンチャー学会事務局長。早稲田大学アントレプレヌール研究会理事、早稲田大学女子大生起業家交流会代表。経済産業省、文部科学省等政府委員等。主にベンチャー企業や起業家に関する調査・取材を手掛けながら、起業家教育や事業創造論、事業計画、キャリアクリエイト等を早稲田大学、上智大学、事業創造大学院大学等で担当している。一般社団法人日本ベンチャー学会では、1,200人の会員を中心に、中小・ベンチャー企業が創出しやすいエコシステムの環境創りに向けた産学官連携の支援活動などを行っている。



- 尾崎 典明

エスファクトリー・代表

2004年九州工業大学大学院・工学研究科物質工学専攻修了

同年コンサルティング会社へ入社、中小から大企業に対する新規事業・新商品開発支援および知財戦略立案等の業務に携わる。

2009年エスファクトリーを創業、企業に加え、地方自治体、NPO、スタートアップに対しアドバイス等行う傍ら、経済産業省や中小企業基盤整備機構等のコーディネータ、アドバイザー等を歴任。また一般社団法人TXアントレプレナーパートナーズではスタートアップに対し実践的なメンタリング等を行う。およそ18年間に渡り、ものづくりやサービス、業種業態問わずまたその事業ステージによらず、それぞれの企業が有する課題に応じた支援を実践してきたことから、日本全国に企業や官公庁、地方自治体、大学等、幅広いネットワークをもつ。現在、筑波大学国際産学連携本部産学連携教授、一般社団法人TXアントレプレナーパートナーズ副代表理事も務める。



審査員(書類審査・ピッチ審査)

- 井本 潤一

ニッセイ・キャピタル株式会社 シニアベンチャーキャピタリスト

京都大学大学院工学研究科修士課程修了。富士フィルム(株)にて医薬品等の研究開発に従事したのち、Thomson Reutersにて特許・文献情報関連業務に従事。現在は、ニッセイ・キャピタル(株)にて主に研究開発型ベンチャー企業への投資を担当。



- 内田 毅彦

株式会社日本医療機器開発機構 代表取締役

内科・循環器科専門医。ハーバード公衆衛生大学院修士・ハーバード経営大学院GMP修了。日本人として初めての米国食品医薬局(FDA) 医療機器審査官を務める。外資系医療機器メーカー勤務経験も有し、医療機器開発のスペシャリスト。医療機器開発のプロセスに幅広く精通し、多領域でグローバル製品の事業化を行っている。医療機器以外では再生医療、プログラム医療機器、ヘルスケアサービス等のインキュベーションも実施している。



- 各務 茂夫

国立大学法人東京大学 大学院工学系研究科 教授

産学協創推進本部 副本部長

一橋大学商学部卒、スイス IMEDE(現 IMD)経営学修士(MBA)、米国ケースウェスタンリザーブ大学経営学博士。ボストンコンサルティンググループを経て、コーポレートディレクション(CDI)の設立に創業パートナーとして参画、取締役主幹等を歴任。2002年東京大学大学院薬学系研究科寄付講座教員となり、2004年東京大学産学連携本部(現産学協創推進本部) 教授・事業化推進部長に就任。

2004年～2013年まで(株)東京大学エッジキャピタル監査役。2013年～20年3月教授・イノベーション推進部長。2020年4月より現職。

一般社団法人日本ベンチャー学会会長。

2005年「東京大学アントレプレナー道場」開講以来、学内に様々な起業家教育プログラムを展開。現在、文部科学省の次世代アントレプレナー育成事業 EDGE-NEXT 東大代表者。今年度、大学発新産業創出プログラム(START)スタートアップ・エコシステム形成支援事業に「Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)」が採択。東大プログラム代表者。



- 曾我 弘

株式会社カピオン 代表取締役

新日鉄退社後、1991年～2010年までシリコンバレーに移住。画像圧縮技術開発のベンチャー企業Eidesign Technologies,Inc.を設立、経営。

1996年にSpruce Technologies,Inc.を設立。DVDオーサリングシステムを開発・商品化し、今日のDVD普及の一翼を担う。旗艦商品

「DVDMaestro」は最初の顧客がDisneyでハリウッドでのデファクト標準になった。最終的に、同社をAppleへ売却。

その後SVJEN(NPO)を設立し、バイオ関連ビジネスや、日米のスタートアップのメンターとして支援活動を行う。2010年末に帰国後、

能登左知と(株)カピオンを共同で設立しNEDOと協力してスタートアップ企業支援を

行う。2012年Blue Jay Energyをシリコンバレーに設立、日本の技術をもとにグローバル事業展開を推進。Kapionは大学発ベンチャー支援（東大）やメンター活動と並行して、慶應大学リーディング大学院で起業講座を担当（2012～2016）。現在名古屋大学卓越大学院の起業メンター。また一般社団法人カピオンエデュケーションズ(NPO)主催の高校生を対象とした国際起業家育成イベント「GTE(r)2016イノベーションチャレンジ」を和歌山市で開催。コロナ禍のため2020から高校生を対象としたDECA JapanのOnline起業大会を開催中。



- 橋爪 克弥

Beyond Next Ventures 株式会社 執行役員

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了後、ジャフコ入社。

入社後10年間、一貫して大学発ベンチャーへの出資に従事。産学連携投資グループリーダー、JST START代表事業プロモーターを歴任。ベンチャーへの出資を行いながら、自ら経営者となりバイオベンチャーの創業を率いるなど、複数の大学発ベンチャーの創出に関与。出資先はアスタムーゼ、マイクロ波化学、リバーフィールド、Biomedical Solutions(大塚HD傘下へ売却)など。

2020年に Beyond Next Venturesへ参画し、医療機器、デジタルヘルス、エレクトロニクスなどへの出資を担当。



- 前田 信敏

NV Ventures株式会社 代表取締役社長

日本インベストメント・ファイナンス株式会社(現大和企業投資株式会社)や、ウェルインベストメント株式会社勤務を経て、2019年NV Ventures株式会社を設立し、代表取締役社長に就任。20年以上に渡り、大学発を中心とする技術系スタートアップの支援を行なっている。文部科学省(現JST)STARTプロジェクト事業プロモーター、内閣府技術委員・アドバイザー等を歴任。現在、NEDO事業カタライザー、川崎市Kawasaki Deep Tech Acceleratorメンター、K-NICサポーター、KSPイノベーションビジネススクールメンター、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 イノベーション委員会 委員等を務める。



- 松田 一敬

合同会社SARR 代表執行社員

慶応大学経済学部卒業後、山一証券(株)証券引受部を経て、同社ロンドン現地法人にて中東、アフリカ、東欧諸国等を担当する。その後、国内初の地域密着型ベンチャーキャピタルを設立。2000年6月に札幌Biz Cafeを設立、サッポロバレーのITベンチャーを支援。地元IT企業の株式公開に繋げる。2000年9月、国立大学発ベンチャー第1号(北海道大学発)の設立に関与する等、大学発ベンチャー支援の国内の草分け。製薬企業向けマイルストーン契約の締結等、知財の事業化の実績を積む。2011年4月に合同会社SARRを設立。起業家教育、ハイテクスタートアップの支援等を行っている。



- 東 博暢

株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 主席研究員

大阪府立大学大学院工学研究科(現:電子・数物系専攻)修士課程修了。ベンチャー支援や社会企業家育成支援、ソーシャルメディアの立ち上げを経て、2006年日本総合研究所入社。情報通信分野(ICT)を中心に、PMI、新規事業策定支援、社会実証実験を通じた法制度改正・ガイドライン策定支援等のコンサルティング/インキュベーション活動実施している。ICT 融合領域として、FinTech、メディカル・ヘルスケア、都市開発(スマートシティ)、サイバーセキュリティ、教育等、幅広く対象としている。近年は、政府や海外技術系シンクタンクやアクセラレーターと連携し、ロボット・AI、バイオ・ライフサイエンス等の科学技術の商業化を推進するオープンイノベーションプログラムを実施し、技術系ベンチャー支援・起業家支援にも取り組む。その他、総務省等の政府機関、自治体の委員、民間団体の理事、外部アドバイザー等も歴任している。



(順不同)

2021年 メンター一覽

メンター

- 安達 俊久

グローバル IoT テクノロジーベンチャーズ株式会社 代表取締役社長

東京工業大学電気工学科卒業後、伊藤忠商事に入社。

1982年から1988年まで英国ロンドンに駐在し、日本製電子機器の欧州市場開拓と拡販に寄与。1990年からは、欧米のITベンチャー企業の日本市場における商権獲得と投資事業に従事。1995年から2002年まで、伊藤忠テクノソリューションズでビジネス開発部長、事業企画室長を務め、国内外の先端ITベンチャー起業家及びシリコンバレー Sand Hill Road VCやイスラエルのエコシステムなど幅広い人脈を構築。2002年から2015年まで、伊藤忠テクノロジーベンチャーズ代表取締役社長として、3本総額211億円のVCファンド運営責任者を務める。2011年から2014年まで、一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会の会長を務め、規制緩和とベンチャー成長戦略の提言、実行の貢献。

スタートアップと大企業の共創アライアンス作りとオープンイノベーション創出の経験豊富。



- 石倉 大樹

株式会社日本医療機器開発機構 取締役CBO

医療分野での起業・新規事業開発に特化。自ら創業メンバーとして参画した創薬ベンチャー・アキュメンバイオフーマは、日本で初めて大学発の技術を事業化した会社として上市(欧州)に成功。その後は医療ITベンチャー・エムスリーにて、製薬企業及び医療機器メーカーの治験を加速化させるITサービスの新規事業

開発をリード。スタンフォード大学経営学修士課程(MBA)留学中には、Medicine X の Innovation Sourcing Team として、mHealth 及び Health Tech の startup を投資検討し、Biodesign プログラムも経験。現 P5,Inc.取締役。
平成27年度東京大学大学院薬学系研究科非常勤講師。



- 石原 玄基

株式会社日本医療機器開発機構 事業開発マネージャー

医療関連技術やサービスの新規事業開発に従事。特に検査事業の開発および運営を強みとする。保険会社グループ企業にて開始した新規事業2件は、立ち上げ3年目での黒字化に貢献。オープンイノベーションとして大学等との共同研究マネジメントを多数実施。またアニコム キャピタル株式会社にて、投資先の技術デューデリジェンス、出資判断、投資先管理などをリード。

東京大学農学生命科学研究科博士課程修了(農学博士)



- 潮 尚之

ITPC (International Technology Partnership Center) プリンシパル

シリコンバレー及び東京/大阪を拠点として、北米の有望なベンチャー企業の発掘と日本進出のサポート、オープンイノベーションを推進する日本企業の海外動向調査やベンチャー企業との協業サポートなど、International Business Development

の専門家として活動中。専門分野はオートモーティブ、セキュリティ、画像処理、センサ/デバイス、AI、IoT、AgFoodTech、InsurTech 及びモノづくりなど。

また、Technology Commercialization の専門家として、大阪大学共創機構・特任教授、大阪府立大学研究推進機構・特認教授、山形大学産学官連携推進本部・特任教授、山梨大学研究推進・社会連携機構・客員教授、東京大学TLO アドバイザ、関西大学SFinX プロジェクト・アドバイザー、NEDO 事業カタライザー及びJST-START 評価委員などを務め、大学発の技術シーズの事業化や大学発ベンチャーの起業を推進するとともに、NEDO-TCP、III 未来、Mt. Fuji イノベーションエンジン、けいはんなリサーチコンプレックス、大阪イノベーションハブ及びT-CEP などの産官学連携プロジェクトのメンター/アドバイザー、川崎市産業振興財団の新事業コーディネーター、品川ビジネスクラブビジネス創出懇談会アドバイザー及びリニアやまなしビジョン最先端企業等誘致アドバイザーなどを担当し、産官学連携の推進や地方の中小企業の新規事業開発や米国進出なども支援。2006年に独立するまでは、松下電器産業(現パナソニック)において、ITS(高度道路交通システム)をはじめとした様々なビジネス・技術分野でのグローバルな事業開発やアライアンスを推進。米国(シリコンバレー及びプリンストン)駐在時には、ベンチャー企業や大学との技術連携推進の責任者を担当。慶応義塾大学文学部人間科学専攻卒。



- 大木 美代子
Serend プリンシパル

日本 IBM でグローバルマーケティングに従事後、私費留学で渡米。ビジネス修士号取得後、シリコンバレーの大小様々な IT 企業で、グローバルビジネス開発に携わる。2013年1月に独立、同地をベース拠点としてコンサルティング会社 Serend (<http://www.serendinc.com>) をスタート。アメリカ 及び アジアのスタートアップ、中小企業、大企業、政府機関などに対する新規事業創出支援を、戦略策定から実施までハンズオンの伴走型で行っている。また、日本の若者の人材育成にも積極的に関与しており、沖縄の Ryukyufrogs

プログラムのスペシャルサポーターを長年兼任、日本の大学・大学院でのアントレプレナーシップ等に関する講演やシリコンバレーでの体験学習などの機会も多数提供している。サンフランシスコ近郊在住。



- 大矢 将人

凸版印刷株式会社 事業開発本部 戦略投資センター 課長

2000年東京大学大学院工学系研究科修了。凸版印刷入社。

産業資材、医療医薬包材、ディスプレイ用光学部材の研究開発に従事。

2010年より、経営企画本部で主に投資評価プロセスの構築・投資管理業務を担当。現在は、事業開発本部にてベンチャー出資や新事業開発支援に取り組んでいる。2017年に国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が実施した研究開発型ベンチャーの支援人材を育成する高度専門支援人材育成プログラム「Technology Startup Supporters Academy(SSA)」を修了。



- 岡田 朋之

WiTricity Corporation Vice President of Business Development

JABI (Japan America Business Initiatives) 理事、ナビゲーター

Silicon Valley Alliances (SVA) 共同創始者、ビジネスデベロップメント担当

日米の大企業やスタートアップ企業をつなぐ、シリコンバレー在住、技術営業コンサルタント。米国モトローラにて携帯電話開発エンジニア、設計開発チームのマネージャーを経て、日本モトローラに赴任。新規R&Dプロジェクトマネージャー、次世代携帯電話技術部長、モトローラジャパン PCS 事業部長、モトローラアジア パシフィックバイスプレジデント、モトローラジャパン常務取締役を経て、米国に帰国。シリコンバレーにて携帯電話OSのスタートアップ、組み込みソフトウェア企業の米国社長兼本社役員やシリコンバレーベンチャー企業の社外取締役やアドバイザーを歴任。現在、ワイヤレス、ソフトウェア、IoT、半導体、自動車業界向けの技術営業やビジネスコンサルタントとして活動中。ボストンの MIT 発スタートアップ、ワイドリシティーのグローバル営業担当 VP として、EV 向けワイヤレス充電の普及活動をしている。また、シリコンバレーを拠点に、日本のスタートアップ及び中小企業の米国進出支援、大企業のグローバルマネジメント支援を行っている。経済産業省委託事業の始動 Next Innovator メンター、NEDO NEP カタライザー、NEDO TCP メンター。アリゾナ州立大学電子工学科卒。



- 小柴 亮典

株式会社東芝 CPSxデザイン部 新規事業推進室 エキスパート
弁理士

1996年東京大学大学院工学系研究科を修了し、株式会社東芝に入社。研究員として米国ベンチャーに駐在し、ベンチャー企業のスピード感とM&Aの活発さを体感。現在、新規事業推進室に所属し、技術シーズを起点とする新規事業の創出業務に従事。社外の複数のアクセラレーションプログラムのメンターも務める。2017年度国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が実施した研究開発型ベンチャーの支援人材を育成する高度専門支援人材育成プログラム「Technology Startup Supporters Academy(SSA)」を修了。2004年弁理士登録し、社内弁理士として出願、係争・訴訟経験も多数。



- 三枝 裕和

SaiLogic株式会社 代表取締役

株式会社サエグサコオート工業 代表取締役

東京大学大学院経済学研究科(企業・市場専攻)修士課程修了。

株式会社日本総合研究所や PwCアドバイザリー合同会社で経営戦略立案、新規事業開発、事業再生など幅広くコンサルティングを経験した後、リクルートグループに入社。Webマーケティングの新規事業戦略担当マネジャーとして事業を推進。現在は SaiLogic株式会社を立ち上げ、コンサルティングやベンチャー企業への出資・育成を手掛けながら、家業であるサエグサコオート工業を二代目として引き継ぎ、経営革新に日々取り組んでいる。



- 坂本 大

パートナー

ベナモー・グローバル・ベンチャーズ

30年以上の駐米経験を通して、環太平洋地域における事業戦略構築、ベンチャー投資、ビジネスインキュベーション、クロスボーダーM&A・事業提携などに取り組む。NEC のグループヴァイスプレジデントとして、ITサービス分野のコーポレートベンチャーファンド設立などの業務に従事。Niteo パートナーズ社役員、オープングループ社役員、エンタープライズネットワーク、ビディエントシステム社の役員、そしてビジネス以外の面でハーバードビジネススクール北加州協会やサステナブルシリコン

バレー(NPO)のボードメンバー職などを通じて社会貢献活動を行っている。現在3Comやパームコンピューティング社を創業したシリコンバレーのベテラン起業家であるエリック・ベナモーが率いるベナモー・グローバル・ベンチャーズのパートナー、ベイエンジェルズのボードアドバイザーはじめ日本企業や米国スタートアップの顧問を務めながらシリコンバレーにてベンチャー投資やスタートアップの事業支援に従事。慶應義塾大学経済学部卒、ハーバード大学MBA。



- 瀬川 秀樹
クリエイブル 代表

NEDO(TCP/NEP)や文科省のEDGEでのメンターを多く勤める。

ベンチャーや大企業、また高校生、大学生、社会人など、特に若手の育成のための新規事業案策定の講演・研修や新規事業推進支援も多く手掛けている。得意とする特定分野の技術は特にないが、広く様々な技術の知見と理解を有する。メンタリングでは、こんがらがってしまっている課題を解きほぐし、新たなアイデアと一緒に考え、User像を磨き、Wowがある解決策を見出し、それらを含めた魅力あるシンプルな戦略やストーリーの構築を行うことを、とにかく「楽しく」やることが特長。「シンプルで魅力あるストーリー力」の源泉となっているのが、もう一つの顔である「4コマ漫画作家」の活動。(「イノベーション4コマ」で検索してみてください)

2014年まで長年勤めていたリコーを早期退職。リコーでは、シリコンバレーにおけるCVC(Corporate Venture Capital)の発足と推進や、現地での新規事業の立ち上げと失敗を経験。また、日本においては新規事業開発センター副所長や未来技術総合研究センター長などを歴任し、様々な新しい事業や技術に挑戦してきた。

加えて、世界の貧困層がこれからの人類と会社と自分の未来にとって重要と考え、インドの農村部におけるプロジェクトを起こし活動した。



- 竹居 邦彦

A Tech Ventures株式会社 代表取締役

千葉大学工学部ベンチャービジネスマネジメント非常勤講師

1986年中央大学経済学部卒業、青山学院大学国際ビジネス専攻・ファイナンス課程終了、横浜銀行に入行、支店勤務を経て証券業務に携わる。

2001年より独立系ベンチャーキャピタルでインベストメントマネージャーとしてハンズオン型投資業務に従事。投資分野は素材、バイオ、半導体関連などグローバル展開を目指すテクノロジー系ベンチャー企業など。

ダブル・スコープ株式会社(WS)は2005年リチウムイオンバッテリー用セパレーターの開発・製造を目的に共同代表として設立に参画。WSは2011年12月東証マザーズ上場、2015年東証1部上場を経て、2017年退任。

テクノロジー系ベンチャーの成長に貢献できれば幸いです。



- 田所 雅之

ベーシック チーフストラテジーオフィサー ユニコーンファーム CEO

これまで日本と米国シリコンバレーで合計5社を起業してきたシリアルアントレプレナー。米国シリコンバレーのベンチャーキャピタルのベンチャーパートナーを務めた。Pioneers Asia というグローバルスタートアップイベントのスタートアップ責任者を務めるなど、これまで2000社以上の世界中のスタートアップを評価してきた。

現在は、国内外のスタートアップ数社の戦略アドバイザーやボードメンバーを務めながら、日本最大級のウェブマーケティング会社ベーシックの Chief Strategic Officerを務めながら、事業創造会社のブルーマリンパートナーズの Chief Strategic Officerも務める。2017年にスタートアップ支援会社であるUnicorn Farm を立ち上げた。

世界で累計7万シェアされたスライド “Startup Science”、発売後、3部門（経営、起業、イノベーション）で 42週連続ベストセラー1位(2017年11月2日～2018年8月15日)になった書籍 “起業の科学 スタートアップサイエンス”の著者である。



- 津嶋 辰郎

株式会社インディージャパン代表取締役 マネージングディレクター

大学では鳥人間コンテストのチームを設立し2度の優勝を先導。

レーシングカーコンストラクターでは、シリーズチャンピオンとなる車両開発を経験した後、半導体製造装置ベンチャーのスタートアップメンバーとして事業立ち上げを先導。現在はインディージャパンを設立し、日本およびシンガポールを拠点として大手企業における新規事業立ち上げを支援。

また、アクセラレーションプログラムZEN TECH DOJOを設立し、社会的に意義のあるハードコアテクノロジーに注目したスタートアップの創業期に出資(現在15社)および取締役も兼任する。



- 所 哲哉

株式会社日本医療機器開発機構 事業開発マネージャー

京都大学大学院工学研究科を修了後、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)に入社。不整脈の診断治療支援システム及びカテーテルの営業を経て、安全管理、品質保証、市場開発、製品企画など、医療機器の企画から販売・市販後まで様々なフェーズに携わる。JOMDDでは、大学発シーズのプロジェクトマネジメントに従事。幅広い医療機器ビジネス経験に基づいた事業開発が強み。

-筑波大学大学院ビジネス科学研究科国際経営プロフェッショナル専攻(MBA-IB)

修了

-中小企業診断士



- 中嶋 泰雄

特定非営利活動法人 産業技術活用センター 理事 事務局長

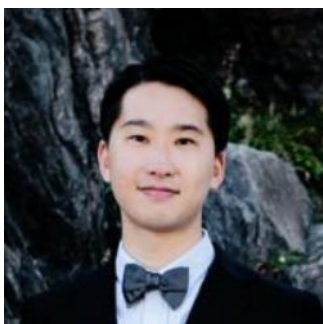
日立製作所のコーポレートベンチャーキャピタルにて、ベンチャーキャピタル子会社を設立し、ベンチャー投資、育成。東北大学にて東京大学・京都大学・大阪大学・東北大学のTech系ベンチャー創出を目指す官民ファンド(文部科学省官民イノベーションプログラム)の企画制度化を担当。経済産業省、総務省のベンチャー等委員、NEDO、民間企業のアドバイザー、メンター、各種法人などの役員委員として、オープンイノベーション、エコシステム構築、起業家、ベンチャー支援、地域活性化等を推進している。



- 萩原 惇允

SyntheticGestalt Ltd. Co-Founder & COO

京都工芸繊維大学(工学)卒業後、Object of Nullを創業、代表取締役役に就任。大手企業の研究開発機関（R&D）向けのコンセプト設計(バイオ、人工知能、自動運転など)を担当。法政大学キャリアデザイン学部 産業文化論及び Apple Japan 本社社内向け特別講義「Creative Salon」にて特別講師を務めた。2017年 NEDO「Technology Startup Supporters Academy(SSA)」を修了。2018年 より内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期 スマートバイオ産業・農業基盤技術担当 戦略コーディネータを務める。



- 齋藤 和紀

エクスポネンシャル・ジャパン社代表取締役・エン・ジャパン社社外取締役

早稲田大学卒、同大学院ファイナンス研究科修了。2017年からシンギュラリティユニバーシティ・グローバルインパクトチャレンジを主催。金融庁職員、石油化学メーカーの経理部長を経た後、ベンチャー支援に従事。経営者に寄り添い、事業計画策定から資金調達のリードなど、成長期にあるベンチャーのサポートや過渡期にある大企業へのアドバイザーを行いつつ、自らも経営者として様々なチャレンジを仕掛ける。エクスポネンシャル・ジャパン社代表取締役、エン・ジャパン社社外取締役、Spectee社CFO、iROBOTICS社CFO、Sabrewing Aircraft社Director等。(www.kazunorisaito.com)

主な著書

「シンギュラリティ・ビジネス」(幻冬舎)

「エクスポネンシャル思考」(大和書房)



- 秦 充洋

株式会社BDスプリントパートナーズ 代表取締役

株式会社メディカルインキュベータジャパン 取締役

一橋大学ビジネススクール(HUB)客員教授

早稲田大学ビジネススクール(WBS) 非常勤講師

特許庁 知財アクセラレーションプログラム(IPAS) 有識者委員・事業メンター

東京都 産業労働局 未来を拓くイノベーションTOKYOプロジェクト 評価委員

ボストンコンサルティンググループ(BCG)にて通信、電力、自動車など幅広い業種で新規事業、M&A、事業再生、組織・人事改革などのプロジェクトを指揮。

また1996年 株式会社ケアネット(東証マザーズ)を創業、共同創業者兼副社長として、医師向けサービスの計画立案、事業推進、資金調達、経営管理を担う。

2000年には ネットベンチャー社長に就任して戦略立案、実行、資金調達、B2B企業買収などにより15 億円の売上を達成(前年比20倍)する。

現在は BDスプリントパートナーズにて大企業の新規事業支援や起業家育成に従事する傍ら、一橋大学・早稲田大学の両校のビジネススクールにて社会人MBA生に事業開発の考え方とノウハウを指導している。

2021年より自社オンラインスクールを立ち上げ、他流試合型の社会人研修にも取り組む。また 2018年にはイノベーション著しいバイオテックとデジタルヘルスに投資するVC「メディカルインキュベータジャパン」を設立、ファンド運営に当たる。

著書「プロ直伝！成功する事業計画書の作り方」(ナツメ社)

監修・執筆 「未来市場 2018-2027」(日経BP社)

監修・執筆 「未来事業 2018 実践編」(日経BP社)



- 林 光洋

株式会社ベータカタリスト 取締役

1994年4月、藤田観光株式会社に入社。2003年12月に株式会社ディー・エヌ・エーに入社。子会社社長を経て、2007年執行役員 EC事業本部長に就任。大手企業との JV設立や協業を手かけ黒字化まで推進。2013年3月に同社を退社後、ベンチャーや大手企業の各種プロジェクトを支援。2015年4月株式会社ベータカタリスト取締役に就任。



- 廣川 克也

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスインキュベーションマネージャー
一般財団法人 SFC フォーラム事務局長
SFC フォーラムファンド ファンドマネージャー

三井住友銀行(1993-2004)、北海道大学(知的財産本部:2004-2005)を経て、慶應義塾大学インキュベーションマネージャーとして着任(2005-2016)、起業支援、起業教育を担当。2012年一般財団法人SFCフォーラムを設立、事務局長就任。2017年SFCフォーラムファンドを設立、ファンドマネージャー就任。大企業勤務、中央官庁勤務、数度の転職と起業、投資家、上場企業役員経験を持つ。海外学生ビジネスコンテストにアドバイザーとして参加、2009年、2010年に

はGlobalTic@台湾でアジア最優秀賞、2009年I2P Global Competition ではチームを世界一に導く。2011年よりアメリカ大使館と連携して全国の学生を対象にした起業家セミナーを開催、これまで3,000人以上の学生のサポートを実施。国、地方自治体、企業、大学などと連携した起業・地域活性・人材育成に関するセミナー等を多数手がけている。
山形大学客員准教授、株式会社キングジム社外取締役など兼務。



- 本藤 孝
QB Capital 代表パートナー
FGC 代表パートナー

外資系大手コンサルティング会社にて、IT及びマネージメントコンサルティングに従事し、数々のプロジェクトに携わる。その後、大手ベンチャーキャピタルにてヨーロッパ、イスラエルへのスタートアップ投資を行う事業部の立ち上げメンバーとして参画する。フランスのベンチャーキャピタルへの出向などを含め、数々のスタートアップ投資を実施し独立。ベンチャーキャピタルのFGCを創設し、55百万ドル(約65億円)のファンドを組成。同社の代表パートナーに就任し、国内外への投資に関わり、投資先の取締役を歴任。会社設立以前から相談を受けるなど徹底したハンズオンを実施。シード段階からの出資も手掛け、投資先数社のファウンダーメンバーとして創業し経営に参画。主に九州の大学関連の案件(共同開発を含む)、及び九州出身者など九州に関連した案件に投資を行うQBキャピタルを創設し、QBキャピタルの代表パートナーに就任。30億円の1号ファンド及び30億円の2号ファンドを組成した。20年以上にわたりスタートアップへの投資を行っている。

Eastern Michigan University BBA in Marketing 卒
同大 MBA in Finance 修了



- 三木 寛文

MK Management, Inc. 代表取締役

早稲田大学商学部卒業。モバイルインターネット領域の成長ベンチャー数社において、約 15 年の事業開発経験を持つ。特に、GREE 株式会社では初期メンバーとして入社、GREE モバイル化、大手通信事業者や各種コンテンツ企業との提携、広告宣伝部やプラットフォーム事業の立ち上げ、中国事業統括など、数多くの新規事業開発、提携案件を担当する。

現在は個人投資家としてベンチャーやVCに個人出資しながら、数十社のアドバイザー/社外取締役を務め、事業開発や営業戦略策定、資金調達アドバイス、人事組織設計のサポート、提携先の紹介や採用支援などをハンズオンで行う。

経産省IPA未踏アドバンスビジネスアドバイザー、ビジネス・ブレイクスルー大学コンテンツ会議委員、講師。



- 南方 郁夫

クラウド・テン株式会社 代表取締役

大阪大学 基礎工学部 情報工学研究科修了。パナソニックで約30年間勤務。その間、本社R&D 部門においてソフトウェアの研究・開発の責任者としてパソコン、EWS、ワープロ、デジタルTV、携帯電話などの事業化立ち上げを主導。

また、国際標準化、コンソーシアムの創設やボードメンバーの経験も多数(DLNA、CE Linux Forum、Java Community Process、Marlin DRM など)

過去3回、合計8年間にわたってシリコンバレーでの駐在経験。

①UC バークレー EECS 客員研究員②バークレーでの人脈がきっかけとなってシリコンバレーのスタートアップと EWS 向けソフトウェアの共同開発③米国パナソニックR&D会社のプレジデント。その間に、シリコンバレーでクラウドを活用したオンラインゲーミング事業を行う社内ベンチャーを起業 2011年末にパナソニックを退職してクラウド・テン株式会社を創業。シリコンバレーの経験と人脈を活かして日本企業の新規事業創出やシリコンバレーの企業の日本戦略のコンサルティングを行うとともに、独自のクラウドサービスの開発、事業化に取り組んでいる。



- 八重樫 馨

i-BuC Ltd. President & CEO

ドイツ系化学企業、Hoechst（現 医薬部門は、Sanofi 社、スペシャリティケミカルは、Clariant 社、基礎化学は、Celanese 社）で、新事業開発、半導体製造用関連機器事業の立ち上げ、日本企業との共同事業設立等を行う。

リチウム電池用セパレーター、人工心肺用中空糸、水処理用脱気膜の3事業部門を持つ Celgard Inc.(Polypore International Inc.を経て、旭化成に売却。)

のマネジメント・チームとして経営に参画、日本法人セルガード株式会社代表取締役社長兼務。同グループの世界最大の鉛電池用セパレーター企業 Daramic Inc.のアジア・太平洋統括や、同グループ中国現地法人 Battery Separator Shanghai Co., Ltd.の取締役を兼務。

シリコンバレーのナノテク企業 NanoGram Corporation の上席副社長および同日本法人ナノグラム株式会社の代表取締役社長に就任。同社の帝人株式会社への売却後、帝人グループのメンバーとして同社の経営に携わる。

事業創造やベンチャー起業支援による産業創成の為に、仲間と共に日本にアイ・バック株式会社を、米国にi-BuC LLC を設立。同社CEO & President。神戸大学、東京農工大学 非常勤講師。



- 八木 雅和

大阪大学大学院医学系研究科 重症下肢虚血治療学共同研究講座

特任准教授(常勤)

光産業創成大学院大学 非常勤客員准教授

一般社団法人 臨床医工情報学コンソーシアム関西 上席研究員

ジャパンバイオデザイン プログラムダイレクター

2003年に東京大学大学院 工学系研究科 電子工学科にて博士課程を修了後、大阪大学大学院歯学研究科助手、歯学部附属病院講師を経て、2008年に臨床医工学融合研究教育センター特任准教授に着任、生体の数理モデリング、および、専門家の知識を実装した意思決定支援システムに関する研究に携わる。そして、2014年にスタンフォード・バイオデザイン グローバルファカルティ研修を修了後、ジャパンバイオデザイン立ち上げに参画し、2015年にプログラムダイレクターに就任。2017年には、ジャパンバイオデザイン フェローシッププログラムを開発・運営する持続可能な体制を構築するために、大阪大学大学院医学系研究科にてバイオデザイン学共同研究講座を立ち上げ、同講座 特任准教授、2019年11月、日本バイオデザイン学会立ち上げに参画。2020年7月より現職。



- 山本 辰久

ボーダレス・プランニング株式会社 代表取締役

京都大学大学院工学研究科交通土木工学専攻修了。ボストン大学大学院都市計画学科修了(MCP)。横浜市役所都市計画局勤務の後、株式会社日本総合研究所総合研究部門で公的機関の主要計画立案・改革支援、企業の中期経営計画策定などとともに、ビジネスモデル特許申請も経験。この間、神戸大学大学院経営学研究科助教授として出向。2011年に起業し、境界にこだわらないボーダレスな視点から、医療、運輸、食品、製造、環境関連業界をはじめ、経営幹部・管理職らを対象とした人材育成・教育研修とともに、事業計画立案支援、海外進出支援にも取り組む。環境NGO カーボンシンク理事。



(順不同)